

2020 年度事業報告

(自 2020 年 1 月 1 日 ～ 至 2020 年 12 月 31 日)

一般社団法人日本医療薬学会

日本医療薬学会は、1990 年（平成 2 年）に本学会の前身である日本病院薬学会として設立され 30 年目を迎えた。当初の計画では 30 周年を祝し、本学会の発展に多大なる貢献を賜った先生方を迎え、創立 30 周年記念シンポジウム及び祝賀会を催す準備を進めていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、第 12 回定時及び臨時社員総会、理事会及び委員会、創立 30 周年祝賀イベント、第 30 回年会、各種研修会・セミナー、専門薬剤師制度の認定申請や試験の実施にも支障を来すなど、多くの学会活動が中止や延期又は開催形態の変更に見舞われた一年であった。特に、本学会最大の事業活動である第 30 回年会については、開催予定日の約 3 か月前にオンライン開催への変更が決定された。山田清文年会長の下で、急遽、映像の収録から配信、受講管理に至るまでの全面的な運営方法の見直しと実施体制の整備が図られた。その結果、初めてのオンライン開催による年会には、従前開催された年会と同程度の約 9,200 名の参加者があり、盛会に終えることができた。

一方で、当年は正会員数が前年度から 800 名以上増加し 13,369 人となった。特に薬局所属者が著しく増加した（2019 年：627 名→2020 年：1,250 名）。当年 1 月に薬局所属の薬剤師を対象に新たに発足した地域薬学ケア専門薬剤師制度への関心が高く、興味を示したことが示唆された。

第 12 回定時社員総会は開催形態を変更し書面決議となった。本総会の議を経て 2020-2021 年度役員が就任し、新たな役員ならびに委員会体制が発足した。新たな事業活動として、前述した地域薬学ケア専門薬剤師制度を含め再構築された専門薬剤師制度の運営が開始された。また、新たな学会賞の表彰制度として、振興賞、JPHCS 誌論文賞が設けられた。表彰制度の再構築を受け、従来の学術貢献賞が日本医療薬学会賞と貢献賞に、論文賞が医療薬学誌論文賞と JPHCS 誌論文賞に分化し、各賞の受賞者が決定された。

感染対策を講じながら、社員総会、理事会、各委員会活動等の運営を進めてきたところであるが、2020 年からの 2 年間は、会員数の増加に見合うような多様な学術活動の実施や認定制度等を通じた人材の育成、社会的要請に応えられることに努める所存である。

2020 年度事業報告の概要は以下のとおりである。

〔1〕事業の部

1. 会員数（2020 年 12 月 31 日現在）

正会員：13,369 名、 学生会員：196 名、 賛助会員：14 社・団体
名誉会員：27 名

2. 医療薬学専門薬剤師制度の認定数（2021 年 1 月 1 日現在）

医療薬学専門薬剤師：1,609 名（前年同日の認定数：1,675 名）

医療薬学指導薬剤師：873 名（前年同日の認定数：869 名）

医療薬学専門薬剤師研修施設：263 施設（前年同日の認定数：276 施設）

3. がん専門薬剤師制度の認定数 (2021年1月1日現在)

がん専門薬剤師：648名* (前年同日の認定数：667名)

がん指導薬剤師：265名 (前年同日の認定数：235名)

がん専門薬剤師研修施設：304施設 (前年同日の認定数：282施設)

4. 薬物療法専門薬剤師制度の認定数 (2021年1月1日現在)

薬物療法専門薬剤師：41名 (前年同日の認定数：41名)

薬物療法指導薬剤師：48名 (前年同日の認定数：34名)

薬物療法専門薬剤師研修施設：202施設 (前年同日の認定数：205施設)

5. 地域薬学ケア専門薬剤師制度の認定数 (2021年1月1日現在)

地域薬学ケア専門薬剤師 (暫定認定)：67名

地域薬学ケア専門薬剤師 (がん) (暫定認定)：157名

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (基幹施設)：169施設

地域薬学ケア専門薬剤師研修施設 (連携施設)：207施設

* 2020年度がん専門薬剤師の新規認定者及び更新者は未計上 (2021年1月時点で審査中である)

6. 会議・委員会開催状況

社員総会2回 (定時・臨時 各1回)、定例理事会4回、臨時理事会1回、理事会事前打合せ3回、新執行部による打ち合わせ1回、予算会議1回、監事監査1回、研究推進委員会1回、医療薬学編集委員会1回、医療薬学専門薬剤師認定委員会2回、認定薬剤師認定制度委員会・大学教員WG合同会議1回、がん専門薬剤師研修小委員会2回、がん専門薬剤師試験小委員会1回、がん専門薬剤師能力向上小委員会3回、がん集中講座に係る日病薬との合同協議3回、専門薬剤師制度運営委員会8回、専門薬剤師制度運営委員会コア会議1回、専門薬剤師認定試験小委員会2回、地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会5回、地域薬学ケア制度に係る臨時打ち合わせ1回、地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会3回、地域、研修マッチングに係る課題についての打ち合わせ1回、地域薬学・研修会に係る打ち合わせ1回、地域薬学ケア専門薬剤師制度 全国研修会に係る打ち合わせ1回、専門薬剤師制度支援システム検討WG1回、研修重複と制度間移行に関する意見交換1回、Web研修のあり方検討WG1回、薬物療法専門薬剤師認定委員会1回、薬物療法集中講義企画・運営小委員会1回、功績賞・振興賞選考委員会1回、学術関連賞選考委員会1回、医療薬学誌論文賞選考小委員会1回、日本医療薬学会賞等選考小委員会1回、JPHCS 誌論文賞選考小委員会1回、Postdoctoral award 選考小委員会1回、役員候補者推薦委員会1回、代議員候補者推薦委員会1回、選挙制度委員会1回、医療薬学学術委員会1回、医療薬学学術小委員会2回、年会あり方検討委員会4回、製薬企業連携検討WG1回、日本薬剤師研修センターとの打ち合わせ1回

7. 各委員会活動報告

(1) 総務委員会

- 1) 2021 年度事業計画の草案を検討した。
- 2) 代議員選挙管理委員会及び代議員候補者推薦委員会を編成した。
- 3) 事務局職員の雇用条件を見直し、新規の採用を行った。
- 4) 事務局職員の人事管理・労務等を調査した。

(2) 財務委員会

- 1) 2019 年度決算報告書を取りまとめた。
- 2) 2021 年度予算案を作成した。
- 3) 事務局で保有している会計帳簿類を点検した。

(3) 広報・出版委員会

1) リーフレットの改訂

学生や若手薬剤師の新規入会促進への活用を目的とした学会紹介用リーフレットの改訂版を作成し、全国の薬学部をはじめ関連機関へ配布した。

2) その他

- ① 次年度のリーフレットの改訂について追加内容等の意見を収集した。
- ② 医療薬学用語集をオンライン検索の対応について議論した。
- ③ ホームページの改変について議論した。
- ④ 他の SNS での広報資材の作成について議論した。

(4) 企画・シンポジウム委員会

1) 医療薬学公開シンポジウムの開催

第 77 回から第 80 回までの 4 回の公開シンポジウムの開催および開催支援を行った。開催に際し、実施日・実施方法の変更等、新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分に配慮しての実施となった。なお、第 77 回と第 79 回については、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大により 2021 年度に開催を延期することとした。

① 第 78 回 宇部市、北原隆志（山口大学医学部附属病院）

開催日 2020 年 8 月 22 日（土）、会場 山口大学医学部附属病院オーディトリウム

テーマ 『認定・専門薬剤師のアウトカム ～大学と医療現場との連携による専門教育～』

② 第 80 回 前橋市、山本康次郎（群馬大学医学部附属病院）

開催日 2020 年 9 月 27 日（日）、会場 昌賢学園まえばしホール

テーマ 『地域包括ケアにおける認定・専門薬剤師の役割』

<2021 年度に開催延期となった回>

③ 第 77 回 岐阜市、北市清幸（岐阜薬科大学）

開催日 2021 年 1 月 24 日（日）、会場 WEB 開催（Live 配信、岐阜薬科大学第一講義室）

テーマ 『医療環境の変化に対応した薬剤師職能の発揮 ～成果創出にどう繋げるか～』

④ 第 79 回 岩手県紫波郡、工藤賢三（岩手医科大学薬学部・附属病院）

開催日 2021 年度に延期、会場 岩手医科大学矢巾キャンパス

テーマ 『これからの地域における薬剤師の役割を考える』

2) 2021 年度の医療薬学公開シンポジウムの開催方法・計画の検討

2021 年度の公開シンポジウムの開催方法・計画等について検討した。

3) 年会に係わるシンポジウムへの演題と登録

本学会の各委員会が企画する第 30 回年会のシンポジウム等の演題登録に際して、当委員会が窓口となって各委員会への登録を募った。取り纏めた結果を理事会で協議し、第 30 回年会への組み入れを提言した。

(5) フレッシュヤーズ活性化委員会

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け第 4 回フレッシュヤーズ・カンファレンスの開催を下記の期日に延期することとした。

- ・ 実行委員長 中村敏明 (大阪薬科大学薬学部 教授)
- ・ 日 程 2021 年 6 月 13 日 (日) 午後
- ・ 会 場 オンライン開催

(6) 会員委員会

- 1) 会費の遡及納入に係る嘆願書及び休会届を受け付け、対応を検討した。
- 2) 2021 年度分会費の納入依頼を、学会ホームページ、医療薬学第 46 巻 11 号及び同 12 号に掲載するとともに、会員宛にメールを配信して周知した。

(7) 医療薬学編集委員会

- 1) 「医療薬学」第 46 巻 1 号～12 号を編集・発行した。
 - ① 2020 年 1 月から 12 月までに 143 編 (うち非学会員から 17 編) の論文投稿を受け、同期間内に 84 編を採択した。(採択率: 58.7%)
 - ② 第 45 巻 1 号～12 号に 84 編の論文を掲載した。
内訳: ミニレビュー 1 編、一般論文 30 編、ノート 54 編 (うち英文論文は 3 編)
- 2) その他の寄稿区分として、専門薬剤師リレーエッセイ 11 編を掲載した。

(8) JPHCS 編集委員会

- 1) 英文誌 *Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences (JPHCS)* の第 6 巻 (2020 年) を編集・発行した。
 - ① 2020 年 1 月から 12 月までに 84 編の論文投稿を受付けた。
内訳: Research article 66 編、Case report 11 編、Review 2 編、Short report 5 編
 - ② 第 6 巻(2020 年)に 27 編の論文を掲載した。
内訳: Research article 20 編、Case report 5 編、Short Report 2 編 (採択率は 32.1%)
- 2) 2020 年度より本誌の掲載論文を論文賞授賞の対象とした。

(9) 専門薬剤師制度運営委員会

- 1) 新たに制度設計された、「医療薬学専門/指導薬剤師」と「地域薬学ケア専門/指導薬剤師」、および制度設計が更改された「薬物療法専門/指導薬剤師」の運用を開始した。
「がん専門/指導薬剤師」の新制度下での運用は、2021 年 1 月から開始。運用状況を確認しながら、適宜、規定細則の変更を行った。
- 2) 新型コロナウイルス感染症による学会活動の停滞に対応するため、各専門薬剤師制度の認定要件の緩和を、制度間で整合性を図りながら実施した。

- 3) 「新専門薬剤師制度の発足にかかる全国研修会 ～地域薬学ケア専門薬剤師制度の運用～」(ウェブ開催)を各都道府県薬剤師会及び病院薬剤師会の代表者を対象に開催した。
- 4) 令和2年度認定薬局等整備事業(専門性の高い薬局薬剤師の養成推進事業)を厚生労働省から受託し、以下の2つの事業を実施した。

- ① 「地域薬学ケア専門薬剤師制度 研修充実のための全国研修会」

オンラインセミナーとオンデマンド視聴

- ② 新たな専門薬剤師制度の広報用パンフレットの作成と配布

- 5) 小委員会の活動

- ① 薬物療法集中講義企画・運営委員会

2021年第1回専門薬剤師認定取得のための薬物療法集中講義【Web開催：オンデマンド配信(2021年2月22日(月)～3月21日(日))】の企画・準備を行なった。

- ② 専門薬剤師認定試験小委員会

専門薬剤師認定試験の出題分野・出題数・公開する試験問題などについて検討した。

- ③ 中小療養病床専門薬剤師認定制度検討WG

中小療養病床専門薬剤師認定制度のあり方を検討した。

- ④ 専門薬剤師制度支援システム検討WG

専門薬剤師制度支援システムの構築を開始した。

- (10) 医療薬学専門薬剤師認定委員会

- 1) 医療薬学専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

- ① 医療薬学専門薬剤師(新規・暫定認定)の申請者、認定試験受験資格審査の合格者数
申請者数 88名、受験審査合格者数 88名

2021年7月4日(日)に専門薬剤師認定試験を実施予定

- ② 医療薬学指導薬剤師(新規認定)の申請者及び認定者数

申請者数 34名、認定者数 34名

- ③ 医療薬学専門薬剤師(更新認定、更新保留)の申請者及び認定者数

申請者数 228名、認定者数 225名、更新保留者数 3名

- ④ 医療薬学指導薬剤師(更新認定、更新保留)の申請者及び認定者数

申請者数 115名、認定者数 113名、更新保留者数 2名

- ⑤ 医療薬学専門薬剤師研修施設の更新申請及び認定施設数

申請施設数 25施設、認定施設数 25施設

- 2) 医療薬学専門薬剤師認定制度の過渡的措置期間の新規申請に係る運用について検討した。(暫定認定および正規認定の両方での運用)

- 3) 医療薬学専門薬剤師の申請書類、規程及び細則の内容と文言等の整備を進めた。

- 4) 小委員会の活動

旧認定薬剤師制度委員会で整備を進めていた本制度の研修到達目標、研修ガイドライン、患者アウトカムや医療の質向上に寄与した事例報告書の最終確認を行った。

- (11) がん専門薬剤師認定委員会

- 1) がん学専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次の

とおり。

- ① がん専門薬剤師（新規認定）の申請、試験及び審査
現在、受験資格の審査中である
2021年5月23日（日）にがん専門薬剤師認定試験を実施予定
- ② がん指導薬剤師（新規認定）の申請者及び認定者数
申請者数 35名、認定者数 35名
- ③ がん専門薬剤師研修施設（新規認定）の申請及び認定施設数
申請施設数 29施設、認定施設数 29施設（うち2施設は準ずる施設）
- ④ がん専門薬剤師（更新認定、更新保留）の申請者及び認定者数
現在、審査中である
- ⑤ がん指導薬剤師（更新認定、更新保留）の申請者及び認定者数
申請者数 13名、認定者数 12名、更新保留者数 1名
- ⑥ がん専門薬剤師研修施設の更新申請及び認定施設数
申請施設数 15施設、認定施設数 15施設（うち1施設は準ずる施設）

2) 教育啓発活動として、第30回年会でシンポジウムを開催、日本病院薬剤師会との合同でがん専門薬剤師集中教育講座をオンラインで開催、日本がん薬剤学会において教育セミナーを共催した。その他、予定していたアドバンスト研修会、がん専門薬剤師全体会議は新型コロナウイルス感染症の流行のため中止となった。

3) 小委員会の活動

- ① がん専門薬剤師試験小委員会
新制度への移行のため2020年度のがん専門薬剤師試験は実施せず、2021年5月23日に実施予定である。
- ② がん専門薬剤師研修小委員会
 - i) 2020年2月にごん専門薬剤師集中教育講座を開催した。
 - ii) 他学会が実施する講習会・教育セミナーの受講単位を認定した。
 - iii) がん専門薬剤師研修ガイドライン及びコアカリキュラムを更新した。
 - iv) 2021年第1回がん専門薬剤師集中教育講座【Web開催：オンデマンド配信（2021年1月12日～2月7日）】の企画・準備を行なった。
- ③ がん専門薬剤師能力向上小委員会
2020年のがん専門薬剤師全体会議の準備を行った。
- ④ 抗がん薬プロフィール小委員会
直近の1年間に上市された新規抗がん剤を含む抗がん薬のリスク因子プロフィールの作成を終了した。本委員会で作成した資料を癌治療学会ガイドライン統括・連絡委員会の医薬品プロフィール領域担当委員に提出した。今後は、新たに上市された抗がん剤に関する情報を追加していく方針である。

(12) 薬物療法専門薬剤師認定委員会

1) 薬物療法専門薬剤師制度の専門薬剤師、指導薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。

- ① 薬物療法指導薬剤師（新規認定）の申請者及び認定者数
申請者数 20名、認定者数 13名

- ② 薬物療法専門薬剤師（更新認定）の申請者及び認定者数
申請者数 4名、認定者数 3名
 - ③ 薬物療法指導薬剤師（更新認定）の申請者及び認定者数
申請者数 5名、認定者数 5名
 - ④ 薬物療法専門薬剤師研修施設の更新申請及び認定施設数
申請施設数 12施設、認定施設数 12施設
- 2) 新制度に関して会員への周知を図るために、第30回年会シンポジウム 48「新たな専門薬剤師制度の船出」において「薬物療法専門薬剤師の展開」として紹介し、薬物療法専門薬剤師としての活動を通じた認定取得の意義への参加者の理解を促進することとした。
- 3) 薬物療法専門薬剤師制度と他の認定制度の認定要件等の整合化を図った。

(13) 地域薬学ケア専門薬剤師認定委員会

- 1) 地域薬学ケア専門薬剤師制度の専門薬剤師、研修施設の認定者及び施設数は次のとおり。
- ① 地域薬学ケア専門薬剤師（新規・暫定）認定者 67名
 - ② 地域薬学ケア専門薬剤師「がん」（新規・暫定がん）認定者 157名
 - ③ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設） 169施設
 - ④ 地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（連携施設） 207施設
- 2) 地域薬学ケア専門薬剤師制度を初めて開始するにあたって Web 研修会として「地域薬学ケア専門薬剤師制度にかかるマッチング調整業務および申請手順等に関する説明会」を日本薬剤師会・都道府県薬剤師会と協力して実施した。
- 3) 地域薬学ケア専門薬剤師研修コアカリキュラム及びガイドラインの整合性、認定要件の詳細内容について検討した。
- 4) 地域薬学ケア専門薬剤師研修小委員会の活動
地域薬学ケア専門薬剤師制度における症例サマリーの書き方等について検討した。
- 5) 各都道府県薬剤師会の協力の下で、本制度の連携研修のマッチングを図った。

(14) 功績賞等選考委員会

振興賞は、2020年度より新たに運営を開始した表彰制度である。

- 1) 功績賞（受賞者3名）
- ・ 河原 昌美 （愛知学院大学 薬学部）
 - ・ 武田 泰生 （鹿児島大学病院 薬剤部）
 - ・ 宮崎 長一郎 （有限会社宮崎薬局）
- 2) 振興賞（受賞者2名）
- ・ 折井 孝男 （NTT 東日本関東病院 薬剤部）
 - ・ 濱 敏弘 （公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部）

(15) 学術関連賞選考委員会

2020年度より、従前の学術貢献賞を日本医療薬学会賞と学術賞に、論文賞を医療薬学誌論文賞と改め、JPHCS 誌論文賞を新設した。

- 1) 日本医療薬学会賞（受賞者1名）
 - ・ 山田 安彦 （東京薬科大学 薬学部）
研究題目 医薬品の適正な臨床使用と開発を目指した薬効解析研究の展開
- 2) 学術賞（受賞者1名）
 - ・ 森田 真也 （滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）
研究題目 全リン脂質クラス高感度ハイスループット定量法の開発
- 3) 奨励賞（受賞者4名）
 - ・ 尾田 一貴 （熊本大学病院 薬剤部）
研究題目 薬剤耐性菌感染症制圧を企図した抗菌薬個別化投与設計
 - ・ 小林 一男 （公益財団法人がん研究会有明病院 薬剤部）
研究題目 がん薬物療法における経口抗がん薬の曝露対策とアドヒアランス
および副作用マネジメントに関する研究
 - ・ 齋藤 佳敬 （北海道大学病院 薬剤部）
研究題目 がん専門薬剤師による臨床アウトカムの創出
 - ・ 横山 雄太 （慶應義塾大学 薬学部）
研究題目 Pharmacokinetics/pharmacodynamics に基づいた抗菌薬の感染症予防
および治療における個別最適化に関する研究
- 4) Postdoctoral Award（受賞者10名）
 - ・ 朝居 祐貴 （三重中央医療センター 薬剤部）
学位論文題目 肝外臓器における薬物代謝酵素の反応速度論的解析及び発現変動に
関する研究
 - ・ 宇野 貴哉 （国立循環器病研究センター 薬剤部）
学位論文題目 免疫抑制薬の適正使用に向けた薬物代謝ならびに相互作用を基盤と
した臨床薬学研究
 - ・ 大橋 健吾 （大垣市民病院 薬剤部）
学位論文題目 薬剤師が主導する抗菌薬適正使用支援体制の確立と臨床薬学的介入
の有用性に関する研究
 - ・ 片田 佳希 （京都大学医学部附属病院 薬剤部）
学位論文題目 プロトコルに基づく薬物治療管理における薬剤師の貢献に関する研
究
 - ・ 神谷 貴樹 （滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部）
学位論文題目 Low Body Mass Index and Myeloablative Conditioning Regimen
Prolong the Duration of Parenteral Nutrition During
Hematopoietic Stem Cell Transplantation
 - ・ 末次 王卓 （九州大学病院 薬剤部）
学位論文題目 造血幹細胞移植のタクロリムス個別化投与設計に向けた臨床情報・
遺伝子多型情報の有用性解明に関する研究
 - ・ スタッブ 由紀子 （金沢大学附属病院 薬剤部）
学位論文題目 希少がん治療における安全性の向上を指向した有害事象管理・個別
化薬物療法の開発
 - ・ 瀬山 翔史 （慶應義塾大学病院 薬剤部）

- 学位論文題目 インフルエンザ菌の薬剤耐性に関する研究
- ・ 平出 誠 (星薬科大学 薬学部)
- 学位論文題目 がん患者における静脈血栓塞栓症と抗凝固療法に関する研究
- ・ 星川 昂平 (浜松医科大学附属病院 薬剤部)
- 学位論文題目 心不全患者において CYP3A5 遺伝子多型がトルバプタンの薬物動態に及ぼす影響とそれらの CYP3A 活性の内因性マーカーおよび血清ナトリウム値との関係

5) 医療薬学誌論文賞 (受賞論文 3 編)

- ・ 論文題目 外来糖尿病患者に対する「薬剤師外来」の成果
著者 白髪恵美, 大西順子, 廣本篤, 李美淑, 手嶋大輔, 毎熊隆誉
(医療薬学 Vol. 45, No. 3, 135-142)
- ・ 論文題目 ナショナルレセプトデータベースを用いた周術期せん妄の発症要因に関する研究
著者 榎原由子, 落部達也, 甘利涼香, 頭金正博
(医療薬学 Vol. 45, No. 4, 195-207)
- ・ 論文題目 アイトラッキング手法を用いた薬剤師の視線動向に基づく調剤エラーの発生メカニズムの解明
著者 辻敏和, 永田健一郎, 佐々木恵一, 末次王卓, 渡邊裕之, 金谷朗子, 増田智先
(医療薬学 Vol. 45, No. 9, 493-503)

6) JPHCS 誌論文賞 (受賞論文 3 編)

- ・ 論文題目 Multiday corticosteroids in cancer chemotherapy delay the diagnosis of and antimicrobial administration for febrile neutropenia: a double-center retrospective study
著者 Hiroki Uda, Yukio Suga, Eriko Toriba, Angelina Yukiko Staub, Tsutomu Shimada, Yoshimichi Sai, Masami Kawahara and Ryo Matsusita
(JPHCS 2019 5:3)
- ・ 論文題目 Incidence and risk factors of neonatal hypoglycemia after ritodrine therapy in premature labor: a retrospective cohort study
著者 Shoko Shimokawa, Akiko Sakata, Yukio Suga, Kazuya Isoda, Shingo Itai, Katsuhiko Nagase, Tsutomu Shimada and Yoshimichi Sai
(JPHCS 2019 5:7)
- ・ 論文題目 Investigation of factors that cause insulin precipitation and/or amyloid formation in insulin formulations
著者 Yui Ohno, Tomohiro Seki, Yu Kojima, Ryotaro Miki, Yuya Egawa, Osamu Hosoya, Keizo Kasono and Toshinobu Seki
(JPHCS 2019 5:22)

(16) 医療薬学教育委員会

1) 本委員会活動の方向性を検討

大学院進学 (学位取得) や医療薬学研究の実施、専門資格の取得を早い段階 (3~4

年次の薬学生を対象とする)に理解してもらうような機会を提供する活動をする事となった。

2) 第31回年会における日本薬学生連盟とのシンポジウムの共催

2021年度の活動として、第31回年会において、日本薬学生連盟と共催によるシンポジウムを企画し演題を登録する。

3) 第4回医療薬学教育セミナーの開催延期

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け開催を見合わせた。研究推進委員会による新企画として、2021年4月18日に第1回臨床研究セミナーとして実施する予定である。

(17) 国際交流委員会

1) 第30回年会における国際シンポジウムの開催

第30回年会(Web開催)において、国際シンポジウムを開催した。

- ・ テーマ 『Efficient and productive pharmacist profession in the future-point of view of pharmaceutical care, education, research and social contribution』
- ・ 概要 第1部 日本、タイ及び中国からの4名が講師
第2部 日本人4名による英語でのセッション
合わせて8演題の発表があった。

2) 海外研修制度の検討

- ・ 専門薬剤師制度の変更に対応するように、海外研修等助成事業規程の改正を行った。
- ・ 2021年度海外研修等助成員募集要項を作成し、募集案内を行った。

3) 第31回年会における国際シンポジウム1&2及び一般演題の英語セッションについて検討した。

- ・ テーマ 『Challenge and Development of Pharmaceutical Health Care and Sciences for the Next Decade』

(18) 医療薬学学術委員会

1) 小委員会の活動

① 医療薬学学術第1小委員会(2020年度・新規、松尾宏一委員長)

委員会活動の開始が2020年12月になったために、初年度の研究計画は予定より大幅に遅延している。アンケートの実施及び集計と解析は2021年に持ち越して実施する。アンケートの結果から、薬剤師による患者モニタリングによる薬物療法の有効性及び安全性への影響に関する研究計画を出来るだけ早期に検討し、実施方法などを決定する。

② 医療薬学学術第3小委員会(2020年度・継続、宮崎雅之委員長)

愛知県内における活動として、がん領域に従事し、臨床研究の経験が浅い薬剤師、臨床研究を行いたいを実施できる支援体制が整っていない施設に所属する薬剤師が臨床研究を実践するために必要なクリニカルクエストの立案、関連研究の文献調査、多施設共同研究計画書の作成、倫理委員会の申請・承認などを支援する体制の確立を行った。

③ 医療薬学学術第4小委員会(2020年度・継続、米澤淳委員長)

第 30 回年会でシンポジウムを開催した。オンデマンドであったためその効果を検討することはできなかった。Web 講演会等が可能となってきたため、経費の問題はあるが、医療薬学会事務局と相談しながら、講演会・アンケート調査を企画していく予定である。

2) 医療薬学学術小委員会の新規募集

2021 年 4 月より発足する医療薬学学術小委員会の研究テーマの公募手続きを進めた。

(19) 研究推進委員会

1) 第 1 回臨床研究セミナーを企画した。

- ・ テーマ 『臨床研究を始めよう』
- ・ 日 程 2021 年 4 月 18 日 (日) 10 時-16 時
- ・ 開催方法 WEB 開催 (ライブ配信)
- ・ プログラム 基調講演 2 題、教育講演 1 題、シンポジウム 4 題

2) 第 31 回年会でのシンポジウムを企画し演題を登録した。

- ・ テーマ 『研究活動と臨床能力の向上を目指して』

(20) 製薬企業連携検討ワーキング

1) 第 31 回年会におけるシンポジウム演題を登録した。

製薬企業側の関心が高い「医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドラインを踏まえた情報提供の在り方と臨床現場での情報ニーズ」というタイトルのシンポジウムを企画する。なお、本学会と製薬協との連携も重要であるとの視点から、シンポジストや座長には製薬協で活動している方々にご協力を仰ぐこととした。

(21) 年会長候補者推薦委員会

第 35 回年会 (2025 年開催) の年会長候補者を募集した。

(22) 選挙制度委員会 (役員候補者選挙管理委員会、代議員選挙管理委員会)

1) 2020-2021 年度役員を選任

役員候補者選出規程に基づき、2020-2021 年度役員候補者選挙を実施し、理事候補者 20 名および監事候補者 3 名を選出した。当該候補者は第 12 回定時社員総会 (2020 年 6 月、書面決議成立) の審議を経て就任が決定した。

2) 2021-2022 年度代議員を選任

代議員選出規程に基づき、2021-2022 年度代議員選挙を公示 (定数 315 名) し、立候補者を募集した。また、代議員候補者推薦委員会により推薦候補者 (32 名) を選出し、本選挙の被選挙人名簿を作成・公開した。2021 年 3 月に当選者を決定する手続きを進めている。

(23) 年会あり方検討委員会

新型コロナウイルス感染拡大の影響に鑑みた第 30 回年会の開催方法等を協議した。オンラインを利用した際の年会の運営方法、年会長が取り組みやすい体制作りや公益社団法人へ

の移行を見据えた学会としての組織体制及び諸規程類の整備等の検討を進め、年会用の旅費規程及び謝金規程を作成した。

(24) 創立 30 周年記念事業委員会

創立 30 周年記念シンポジウム・祝賀会の開催計画を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、記念イベントの開催を中止した。その代替案として、記念シンポジウムのシンポジストを依頼していた数名の会頭経験者らによる座談会の開催を模索し、2021 年 6 月に開催することとした。

(25) 人事委員会

2020 年 5 月、10 月、11 月に 1 名ずつを事務局の契約職員として採用した。

また、正規職員としてうち 1 名を登用するとともに、新たな正規職員として 12 月に 1 名を採用した。

8. 年会（第 30 回日本医療薬学会年会）

テーマ 『患者と医療を支える 薬剤師力を磨く』

年会長 山田清文（名古屋大学医学部附属病院 薬剤部 教授・薬剤部長）

開催日 2020 年 10 月 24 日（土）～11 月 1 日（日）

開催方式 オンラインを利用した Web 年会

1) 事業内容

年会長講演	1 題
会頭講演	1 題
特別講演	4 題
教育講演	5 題
International Symposium（国際シンポジウム）	2 セッション
緊急企画シンポジウム	2 セッション
シンポジウム（公募）	63 セッション
ワークショップ	1 セッション
一般演題	1,280 題
i) 口頭	266 題
ii) ポスター	1,004 題
iii) International Session	10 題
メディカルセミナー	31 セッション

◆ 一般参加者数 9,176 名

2) 事業成果

第 30 回日本医療薬学会年会を 2020 年 10 月 24 日（土）～11 月 1 日（日）の 9 日間にわたりオンラインにて開催した。当初は、2020 年 9 月 20 日（日）から 22 日（火・祝）にかけて名古屋国際会議場・ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋での通常開催を予定していたが、新型コロナ感染症の拡大防止と年会参加者の安全を第一に考え、オンライン

年会として開催することにした。本学会としては初めての試みであるが、通常の集合型学会と比較して時間や経費の負担が軽減され、オンデマンドで視聴できるというメリットもある。一方で、オンライン年会としたため、懇親会と市民公開講座の開催は断念した。参加者は約 9,200 名に及び、1 日平均のログイン件数は 3,000 件を超えた。

本学会のテーマは「患者と医療を支える薬剤師力を磨く」とした。超高齢社会において疾病構造は大きく変化する一方、医学薬学の進歩に伴い、先端医療が次々と日常診療の中に組み込まれ、診断・治療法は多様化・高度化している。こうした社会・医療環境の変化に対応するためにチーム医療の推進と多職種連携、タスクシェア・シフトが求められており、薬剤師には患者と医療を支える確かな専門性が必要となる。また、有効で安全な薬物治療を実現するためのコミュニケーション力、交渉力、実行力なども必要であり、新しい治療法の開発に貢献するためには研究力も必要である。これら薬剤師に求められる専門性と能力を含めて「薬剤師力」と呼ぶことにした。特別講演 1 では、名古屋大学医学部附属病院の小寺泰弘病院長が「胃癌治療ガイドラインにみる胃癌の薬物療法」と題して、胃癌の薬物療法の歴史を振り返り、進行・再発胃癌の治療、補助療法についてご講演いただいた。特別講演 2 では、厚生労働省の山本史審議官が「令和の薬剤師に期待する一変化していく社会と医療の中で、未来に向けて一」についてご講演いただいた。特別講演 3 では、塩野義製薬株式会社の手代木功代表取締役社長が、「医療の将来を見据えた製薬企業の社会貢献」と題して、医療全体の将来を見据えた製薬企業の進むべき方向性をご紹介いただき、社会への貢献という面からの製薬企業から薬剤師への期待と願いについてご講演いただいた。特別講演 4 では、東京大学・大学院薬学研究科の池谷裕二教授が、「医療と薬理学—AI の現在と未来を考える」と題して、創薬科学と医療分野における機械学習の応用の最近の傾向をご紹介いただき、将来的に社会構造や人間行動がさらに最適化されて人類の幸福度と生産効率が共存できる未来を見据えていることをご講演いただいた。教育講演 1 では、名古屋大学大学院医学系研究科の尾崎紀夫教授が「ゲノム医療の現状と今後の方向性」と題して、がん、難病及び精神疾患に関してゲノム医療の現状を外観し、ゲノム医療推進に向けた研究と人材育成・体制整備の方向性についてご講演いただいた。教育講演 2 では、慶應義塾大学医学部の谷川原祐介教授が、「個別化医療：TDM vs ゲノム医療」と題して、個別化投薬は遺伝子シーケンスと TDM という新旧技術の得手不得手を相互補完し統合化された投薬アルゴリズムを作り上げた時に完成することをご講演いただいた。教育講演 3 では、和歌山県立医科大学の松原和夫教授が、「ある日の薬剤師業務が永遠の薬剤師業務ではない」と題して、今後も薬剤師の職能を拡大し、医療の中で活躍できるようになるためには、薬剤師の介入によって患者の明らかな臨床的アウトカムを引き出すことが重要であると講演いただいた。教育講演 4 では、名古屋市立大学大学院薬学研究科の服部光治教授が、「アルツハイマー治療薬の現状と未来」と題して、アルツハイマー病の病態の基礎と、治療薬開発の問題点および将来における治療の可能性についてご講演いただいた。教育講演 5 では、名古屋大学医学部附属病院の長尾能雅教授が「医療事故から患者を守る一薬剤師とともに一」と題して、有事と平時の患者安全業務の全体像を概説いただき、業務の連動と薬剤師の役割についてご講演いただいた。

公募シンポジウムには 112 枠の提案があり、委員会提案シンポジウムと合わせて合計 140 枠のシンポジウム案の中から最終的に 63 枠のシンポジウムを選定した。メインテーマの「診療」「教育」「研究」「社会貢献」の観点からバランスが取れた構成とし、病院薬剤師の

みならず、薬局薬剤師、大学、企業からの参加者が聴講できる内容とした。緊急企画として「新興感染症に対して医療者はどう対応すべきか—COVID-19の経緯を踏まえて—」、「コロナ禍に対応した実務実習の取り組み」と題して、2枠のシンポジウムを開催した。国際交流としてInternational Symposium「Efficient and productive pharmacist profession in the future -Point of view of Pharmaceutical Care, Education, Research and Social Contribution-1, 2」と題して2枠(8題)を開催し、中国、タイ、日本における薬剤師による取り組みについて紹介された。

コロナ禍での演題募集にもかかわらず、一般演題は合計1280題を採択することができた。海外からも10演題のポスター発表が行われた。初のオンラインでの試みであったため、本年会では優秀演題の選考は断念した。ワークショップは「ジェネラリストとしての薬剤師力を磨く(2)—実践!複合疾患を有する患者への薬学的アプローチ」と題して臨床能力の習得を目的として、複合疾患を有する患者の病態把握から薬物療法の設計までの一連のプロセスを実践形式で演習する企画がZoomを利用して開催された。また、メディカルセミナーも31企画が開催され大盛況であった。

単位認定に関して、日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師、がん専門薬剤師、薬物療法専門薬剤師、地域薬学ケア専門薬剤師の単位認定を行った。日病薬病院薬学認定薬剤師制度の研修単位シールの発行については、7,935人が申請を行うことができたが、運営側としては聴講者のログ管理や再生速度変更などについて規程があるためにサーバーシステムの強化に迫られた。日本病院薬剤師会が認定する「各専門領域の講習会」としても承認された。一方、日本薬剤師研修センターについては録画配信が単位として認められないことから、本年会では受講シールの発行は断念した。

不測の事態によりオンライン年会となったが、開催期間を9日間と延長することで参加者からは通常開催とは異なり時間に囚われずに多くの発表を聴講することができ満足したとの意見が寄せられた。年会発表者・参加者の熱意により、コロナ禍での開催となる初のオンライン年会で医療薬学の更なる発展に貢献することができた。反省点としては、現地開催することができなかつたために、懇親会、市民公開講座、優秀演題賞などの企画を断念したことを挙げる。大きな混乱もなく盛会のうちに終えることができたのは、日本医療薬学会理事会・事務局のご支援と、組織委員・プログラム委員・実行委員など多くの方々のご尽力の賜物であり感謝申し上げます。

9. 医療薬学公開シンポジウム

(1) 第78回医療薬学公開シンポジウム

テーマ 『認定・専門薬剤師のアウトカム ～大学と医療現場との連携による専門教育～』

開催日 2020年8月22日(土)

会場 山口大学医学部附属病院 オーディトリウム

特別講演

座長：山口大学医学部附属病院 薬剤部長・教授 北原隆志

「大学と医療現場との連携による専門教育」

岡山大学病院 薬剤部長・教授 千堂年昭

シンポジウム

座長：山口大学医学部附属病院 薬剤部副部長 幸田恭治

山口県病院薬剤師会 会長 山崎博史
「地域医療における感染制御専門・認定薬剤師の適性と役割」
山口大学医学部附属病院 薬剤部 河口義隆
「地域包括ケアの中でがん専門薬剤師が果たす役割と貢献」
神戸市立医療センター中央市民病院 薬剤部副薬剤部長代行 池末裕明
「保険薬局薬剤師に求められる役割と専門性」
西日本薬局 小野田店 大坪泰昭
「専門薬剤師と大学教育」
山口東京理科大学薬学部医療安全学分野 教授 黒川陽介

◆参加人数 119名

(2) 第80回医療薬学公開シンポジウム

テーマ 『地域包括ケアにおける認定・専門薬剤師の役割』

開催日 2020年9月27日(日)

会場 昌賢学園まえばしホール、Web開催(Live配信)併用

講演

座長：高崎健康福祉大学薬学部 教授 大林恭子

講演1「群馬県における地域医療と認定・専門薬剤師への期待」

一般社団法人群馬県薬剤師会会長 田尻耕太郎

講演2「がん薬物療法における地域連携 ～薬剤師に期待すること～」

群馬大学医学部附属病院 腫瘍センター長 塚本憲史

シンポジウム1

座長：群馬大学医学部附属病院 助教 八島秀明

「医療薬学会認定・専門薬剤師制度の紹介」

群馬大学医学部附属病院 教授・薬剤部長 山本康次郎

「研究のはじめ方・進め方・まとめ方」

高崎健康福祉大学 薬学部 教授 大林恭子

「認定・専門薬剤師申請における症例報告のポイント」

群馬大学医学部附属病院 薬剤部 勝見重昭

「臨床現場における研究の紹介・臨床現場と大学の共同研究」

群馬大学大学院医学系研究科 臨床薬理学准教授 荒木拓也

シンポジウム2

座長：高崎健康福祉大学 薬学部 助教 長嶺歩

「地域医療に活かす抗菌化学療法の知識」

群馬大学医学部附属病院薬剤部 助教 八島秀明

「がん専門薬剤師制度の広がり地域医療」

群馬県立がんセンター 薬剤部 薬剤課長 藤田行代志

「認定・専門の取得と更新、NST 専門薬剤師による地域医療への貢献と課題」

神岡産婦人科医院 薬剤師 荒木聖美

「専門薬剤師と薬学部生教育」

高崎健康福祉大学 薬学部 助教 長嶺歩

◆参加人数 499名（現地参加者34名、WEB参加者465名）

10. がん専門薬剤師集中教育講座

(1) 東京

開催日 2020年2月15日、16日

会場 東京ビックサイト 国際会議場

第1日 2月15日(土)

「抗がん薬の臨床薬理」 滋賀医科大学医学部附属病院 薬剤部 野田哲史

「乳がんの薬物療法」 がん研究会有明病院 副院長・乳腺センター長 大野真司

「悪性リンパ腫の薬物療法」 静岡県立静岡がんセンター 血液・幹細胞移植科 部長 池田

宇次

「皮膚がんの薬物療法」 国立がん研究センター中央病院 皮膚腫瘍科 科長 山崎直也

「がんの発生、転移、薬剤耐性」 がん研究会 がん化学療法センター 所長 藤田直也

「がん薬物療法の臨床試験」 国立がん研究センター東病院 薬剤部 副薬剤部長 米村雅人

「安全な化学療法の実践」 帝京大学 薬学部 臨床薬学講座 教授 板垣文雄

「放射線腫瘍学」 国立がん研究センター中央病院 放射線治療科 村上直也

第2日 2月16日(日)

「大腸がんの薬物療法」 埼玉医科大学国際医療センター 消化器腫瘍科

教授・診療部長 濱口哲弥

「緩和医療とがん疼痛治療」 聖隷横浜病院 薬剤部 薬剤部長 塩川満

「肺がんの薬物療法」 関西医科大学附属病院 呼吸器腫瘍内科 診療教授 倉田宝保

「白血病、造血幹細胞移植」 北海道大学大学院医学研究院内科系部門 内科学分野

血液内科学教室 教授 豊嶋崇徳

「支持療法」 福岡大学 薬学部 臨床薬学教室 准教授 林稔展

「胃がんの薬物療法」 愛知県がんセンター 副院長・薬物療法部

部長・外来化学療法センター長 室圭

「肝・胆・膵がんの薬物療法」 がん研究会有明病院 肝・胆・膵内科 副部長 佐々木隆

◆参加人数 623名

11. 関係団体への協力（本学会役員）

1) 一般社団法人薬剤師認定制度認証機構 安原真人：理事、本学会：特別会員

2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査制度への協力学会として登録
奥田真弘：統括責任者

3) 2020年度厚生労働科学研究費補助金

医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業

「薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究」

安原真人：研究代表者

〔2〕 組織運営の部

1. 2021-2022 年度 代議員の選出

2020 年 10 月に 2021-2022 年代議員選挙の公示を行った。第 13 回定時社員総会（2021 年 3 月 20 日開催）までに代議員選挙を実施して当選者を決定する。本選挙の当選者は第 13 回定時社員総会の終結時から任期 2 年に亘って就任する。

事業報告附属明細書

(2020年1月1日～2020年12月31日)

1. 役員 (2020年5月27日第12回定時社員総会終了後から就任)

会頭

奥田 真弘 大阪大学医学部附属病院

副会頭

武田 泰生 鹿児島大学病院

山田 安彦 東京薬科大学薬学部

山本 康次郎 群馬大学医学部附属病院

理事

石井 伊都子 千葉大学医学部附属病院

石澤 啓介 徳島大学病院

出石 啓治 いずし薬局

大谷 壽一 慶應義塾大学

河原 昌美 愛知学院大学薬学部

吉光寺 敏泰 MeijiSeika ファルマ株式会社

崔 吉道 金沢大学附属病院

齋藤 秀之 熊本大学病院

齋藤 嘉朗 国立医薬品食品衛生研究所

鹿村 恵明 有限会社 グッドファーマシー

田崎 嘉一 旭川医科大学病院

寺田 智祐 滋賀医科大学医学部附属病院

富岡 佳久 東北大学大学院薬学研究所

村木 優一 京都薬科大学

百瀬 泰行 国際医療福祉大学

矢野 育子 神戸大学医学部附属病院

監事

大森 栄

佐々木 均 長崎大学病院

望月 眞弓 慶應義塾大学

2. 事務局 (2020年12月31日現在)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目12-15 日本薬学会長井記念館7階

事務局長1名、職員2名、契約職員3名

以上、敬称略